

2012年(平成24年)

新春号

[第21号]

発行 東京鉄構工業協同組合
 〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階
 - 0032 TEL: 03 (5566) 1595
 FAX: 03 (5566) 1597

Tokyo
Steel-rib
Fabricating
Association

Report

東構協

<http://www.tsfa.jp/>

都庁、区役所に陳情活動

公共工事の地元優先発注など求める



11年1月20日、東京都庁を訪問。都議会議員らに、陳情書を手渡した。



足立工業会、鉄工建とともに、右端が飯田歳樹理事長。



11年1月20日、江東区役所を訪れ、業界が置かれている窮状を強く訴えた。



11年2月25日、杉並区役所を訪れ、田中区長に陳情書を手渡した。

当組合では昨年から最重点事業として、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会の両団体と共同で東京都と都内市区町村を対象に耐震補強などの公共工事に関する地元優先発注の促進を働きかける陳情活動を進めています。

近年、景気後退により受注環境が悪化するなか、都下の物件を巡っては規模を問わず、地方ファブの参入や鋼材商社の介在によって受注競争が激化しています。当組合ではこうした現状を鑑みて対策の必要性を痛感し、行政に対して地場産業保護の観点から元請企業による地元専門工事業者の優先起用を促す措置の実施を訴えることとしました。その際、「地元企業の育成・環境保護・雇用確保・納税会社への還元

を掲げた要望書を提出しています。

同事業の実現にあたっては、飯田歳樹理事長が就任当初から温めていた腹案を基に、理事会のほか、ワーキンググループを立ち上げて実施に向けた協議を重ねてきました。10年9月26日の定例理事会で陳情活動の実施が正式に決議され、同時に具体的な質疑・陳情事項や活動スケジュールを検討するワーキンググループの立ち上げが決まり、構成メンバー6名の選定も行われました。

11月16日のワーキンググループの会合では、飯田理事長が陳情活動の開始を宣言し、要望書の素案を作成。25日の定例理事会で要望書の素案内容が検討され、一部修正を加えた上で

11年初頭に都議会に提出することを決めました。

これまで昨年1月20日の都庁と江東区役所の陳情を皮切りに、2月21日の杉並区議会、同25日の杉並区役所、3月8日の墨田区役所、9月29日の八王子市役所など7カ所を訪れました。この事業は今後とも継続して実施する計画で、現在も訪問先の選定や地元議員との折衝を進めております。

さらに将来展望として、地元優先発注の実現に向けた条例の見直しや制定を求めていくほか、公共事業に従事する労働者の適正な賃金・労働条件の確保を実現するための公契約適正化運動の前進に資する取り組みにも注力してまいります。

組合理事役員 年頭のあいさつ

陳情活動を積極推進



理事長

飯田 歳樹

昨年は、2008年のリーマン・ショックから立ち直り、長引いた不況のトンネルをやっと抜け明るい兆しが見えた矢先に3.11東日本大震災に見舞われ、日本経済も大きなダメージを受けました。さらに追い打ちをかけるように為替相場での超円高や、ギリシャ経済の破たんをきっかけに始まった欧州の債務危機問題等も回復基調の流れを大きく阻害致しました。こうした国内経済の落ち込みなどにより、昨年の日本の鉄骨需要量はおよそ420万トンと予想され、需要の大幅減少が3年間続くこととなります。需供バランスが大きく崩れ、鉄骨加工費の極端な安値受注が経営悪化の大きな要因の一つとなり、その長期化で各社とも生産調整やリストラなど苦境克服のための懸命な努力を続けてはいますが、現状打開の特効薬は残念ながら、なかなか見つからないのが実態かと思われま

しかしながら、震災で中断していた大規模開発の着手や、都内の震災時の輸送ルートを確認するため主要幹線道路に面する建築物の耐震化促進条例に伴い、今後ますます需要が高まってくることは間違いなく、今年は回復の兆しがみえる期待の年になるでしょう。このような情勢を組合員全体で受け止めつつ、昨年からの鉄工建設業協同組合や東京足立鉄骨工業会と協働して、東京都をはじめ地元自治体の首長や議会に対して、「地元専門業者の積極的な

採用の推進」のための陳情活動を行ってきました。まだ目に見える具体的な成果は出ていませんが、私たちの主張は十分に理解されてきています。

今年もこうした陳情活動を積極的に推進、さらに組合構成員同士の交流を密にし、情報交換や仲間意識の高揚に努めて参りたいと思います。

業界を取り巻く状況は決して楽観できるものではありませんが、企業経営の維持の図るために、まず自分の身の丈を踏まえた受注生産を心がけることが、今こそ求められていると思います。信念を忘れることなく組合員の和を大切にしながら、組合の活動がすべての会員の皆さんに少しでもお役に立てるよう努力していく決意です。どうか今年も引き続き組合活動にご理解と協力のほどお願い申し上げます。

(飯田製作所社長)

「I have a dream」



理事
相談役

池田 英敏

「夢の扉」というタイトルの民放番組が毎週放映されています。皆さんも一度はご覧になったことがあるでしょうか？長年研究してきたもの、生命(いのち)をかけて自分の思いを実現するための挑戦や、未開発・未完成のものに取り組む弛みない努力とその過程を紹介する番組です。そこではジャンルを問わず多岐の分野に及び、発明、発見、開発ばかりでなく、ボランティアや伝統を守る技術なども取り上げられています。こうした「夢」に注がれる情熱とあきらめない気持ちには多くの感動を覚えざるを得ません。

もちろん、決して1人だけで挑んでいるわけではなく、多くの人々に助けられていることは言うまでもありま

せん。それが時には町工場のシニアの人達であったり、連れ添ってきた奥方であったり、大学の研究室の教授であったりと様々ですが、信頼関係で結ばれた多くの仲間を支えられているのです。これら画面に映る人々の笑顔と光り輝く眼が何とも印象深く、心に焼き付けられています。人間の価値は行動でしか計測できないと言われますが、夢を描きそれを実現することのなかにはいくつもの困難が伴うもの。そこで求められるものは初志を貫く強固な絆ではないかとわたしには思われます。

たとえ知識を持っていても、その知識が本当の意味で自分のものとなっていなければ知恵も湧いてきません。このこともまた同番組の訴えるところであり、挑み続ける美学を垣間見ることが出来ます。日本社会には未来に向かって挑み続けている優秀な人材が沢山いることに嬉しく思える今日であります。

未来の扉を開けるのはあなたかもしれません。(池田鉄工社長)

いろは歌



副理事長
総務・広報委員長

松田 清明

わたしがまだ子供の頃、幼稚園に入る年齢になったとき、母親から「お前も通うか」と聞かれましたが、遊びたい盛りのわたしは「行かない」と答えました。当時は今と違い、誰もが幼稚園に入るとは限りませんでしたし、近所のガキ大将の統率のもと様々な悪い遊びに夢中になっていました。そんなわけで小学校に入学するまでは平仮名で自分の名前を書くことさえで、母や姉たちは心配して「あいうえお……」や「いろはにほへと……」

を一生懸命教えてくれたものです。その一環としての「いろはカルタ」や、少し学年が上がってから始めた「百人一首」がわたしの最も好きな教材でした。

その「いろは……」が「歌」であり、しかも大変奥深い意味を持っていることを知ったのは、かなり遅く高等学校2年の頃でした。「いろは……」に漢字をあてると、なんと「色は匂えど散りぬるを・我が世誰ぞ常ならむ・有為の奥山今日越えて・浅き夢みじ・酔ひもせず」となったのです。「広辞苑」を引くと、これが涅槃経第十三聖行品の偈（げ）で「諸行無常・是生滅法・生滅滅已・寂滅為楽」の和訳であるとも載っており、四十七文字の同一文字を重用しないでこのような意味深い歌を作るとは何と言うか、神業としか思えません。まさに日本文化の結晶であると思います。

ところで、以前にNHKのテレビ番組のなかで「いろは歌」の他にも、同じ文字を重用しない歌が2、3あると放送していました。その時に書き留めなかったのを忘れてしまいましたが、どなたか知っておられましたらお教えください。

今年は良い年でありますように。

(松田鋼業社長)

結 束 力



副理事長
共済事業委員長
武田 忠義

皆様、新年明けましておめでとうございます。この言葉を本当に使って良い言葉なのか今年は疑問ですが、私はあえて使いたい！！東北の皆様に向け元気を出して貰い、明るく年を迎えて貰いたいという思いを込めて。

さて昨年一年を振り返ってみると、受注工事の建方一年先送り、これが弊社にとって一番辛い出来事でした。受注重量は約3,000トン。まさかの建方延期で、営業にとって大変なことになるしました。工場生産能力約800～1,000トン/月の弊社はこの工事のためにすべての工事を断り、工場を空けていたのです。この延期により3～4カ月製作する物がなくなり、工場からは何か製作する物を受注して来てもらわないと、「会社が如何にかなってしまう」と催促。私を含めて営業3人で、下は数トン・上は数百トンの物件を掻き集め、幸にして何とか工場の穴を埋めることが出来ました。部下には、どんなことがあっても諦めないで営業をすれば受注につながる教訓を得たいと思います。

昨年は3.11の東日本大地震、そしてタイの洪水などいろいろなことがありました。

タイと言えば昨年Sグレードを取得した企業で洪水の影響はあるにはありましたが、工場内に水が入るのを全従業員で防いだと聞いています。しかしながら、工場からの道が洪水の影響を受けて作った製品が出荷出来ない状態とも聞きました。今は大丈夫のようですが、あの状況下における全従業員の結束力に感銘を受け、弊社も結束力を見習わなければならないと従業員にこの話をしました。今年は災害等のない穏やかな1年になって貰いたいと心より思う次第です。(叶産業相談役)

スーパーヒーロー



副理事長
経営近代化委員長
鈴木 貴久

「海軍に入るよりも海賊になるほうがずっと楽しい」うーん、Jobsらしい。

恥ずかしながら私はミーハーであります。ソニーの創業者盛田昭夫さんの著書「メイドインジャパン」や「学歴無用論」、石原慎太郎都知事との共著「NOと言え日本」等々読んで以来のソニー好き、というより盛田シンパです。盛田さんは長嶋茂雄さんと同様に私のスーパーヒーローなのです。創業者にして個性的な製品をアメリカに乗り込みヒットさせるサクセスストーリーに、憧れますよ、誰だって。

私にとってある意味「SONY」のロゴは女子の「シャネル」と同じ価値でした。だからPCは当然バイオで、デジカメはサイバーショット。小学生時代に購入したカセットデッキ「デンスケ」は処分できず、家人からは軽蔑されている次第。こういうファンを増やして差別化すること、ブランド力を重視する方針を晩年の盛田さんは力説していたのですが、まんまと、完全に取り込まれていました。

ベストセラーの「スティーブ・ジョブズ」には久しぶりに完全にやられました。マックPCに対してはデザインナー向きのオタク機種という、縁遠い孤高の存在という感じでした。あまりにも有名な、伝説のスタンフォード大学で卒業生に贈ったスピーチは、感銘を受けましたが・・・それなりに興味はありましたが、信者ではありません。

家庭環境に恵まれず、大学を中退してLSDを楽しみ、ボブ・ディランを愛するような青年がアメリカン・ドリームの成功するわけですが、もちろん紆余曲折があり、ストーリーとしても読ませます。盛田さんのことを述べたのは、当時を思い出し、久しぶりに心を揺り動かされ、魅了されたからです。圧倒的なカリスマ性、仕事に対する情熱と強烈なプライド、そして絶対に妥協しない強い意志があるものの、残忍なほどの人事や利己主義的な考えなど、めちゃくちゃ個性的な人物です。読中、読後、規模も業種も次元

もまったく違うのですが、経営者として、とても勇気づけられました。元気づけられました。そして頑張ろうと誓いました。

震災以降も、急激な円高と国内製造業の空洞化進行など鉄骨需要は厳しい環境が相次いでいます。もし、元気を、やる気を失いつつあるのなら、不安や戸惑いを感じているのなら、マジでお勧めです。私はもの凄いパワーをもらい、そして既に自分を見つめ直し始めています。効果は極めて強力で即効性もあります。

諸兄に判り易く例えるなら、そう、バイアグラみたいになら（笑）。

（那須ストラクチャー工業社長）

今年を復興元年に



副理事長
教育・技術委員長
中川内 信吉

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げるとともに、被災地域の日も早い復興を心より祈念いたします。

昨年5月12～15日の3日間、宮城県の塩釜から七ヶ浜、マリンポートで松島へと現地視察に行ってきました。状況はテレビを通じて見るよりも悲惨で、現実にこの地で多数の方の命が絶たれたと思うとこんな自分でも涙が出てきました。

現地で知り合った婦人は、夫と子供

は助かったものの、ご両親を津波で亡くしたとのこと。そこで僕が「さぞ今でも悲しいのでは」と聞くと、「もう悲しんでいる時間もないし、現実と向き合って家族を守っていく」とおっしゃっていました。町も村も自分たちでできる修繕作業に取り掛かり、被害の少ない店舗で仕事を再開している様子を見る限り、皆さん張り切っていて落ち込んだ様子などは見受けられませんでした。とにかく前向きに生きようとする姿には感動を覚えました。

大震災直後からを振り返ると、政府は救援、復旧にきちんとした対応がとれたのか、なぜ原発の水素爆発時に正確な情報を流さなかったのかなど疑問は尽きません。とくに、子供だけでもヨウ素剤を飲ませ、もっと広範囲にわたって避難させなかったのでしょうか。政府の対策を見るにつけ、今回のような大災害や海外でのトラブルに遭遇した時、この国は本当に自国民を助けてくれるのか心配でなりません。

今後、東北3県や原発周辺の復旧に必要な膨大な費用・人手・時間などや、現在の景気の落ち込みとデフレからの脱却が急務であることなどを考えれば、TPPの参加協議だとか、総理の中国訪問なんてしている場合はありません。最近の政治家は、後世に名が残るパフォーマンスだけに目が向いているように感じられます。

ともかく今は震災からの復旧、復興に全力を傾注すべきとき。今年を復興元年とし、安心して暮らせる日本を構築していきましょう。

（中川鐵工所社長）

子供たち



理事
Mグレード部会長
谷村 忠行

わたしは平成6年に結婚し、27歳で長女（夏萌）を授かった。2年後に長男（一穂）が、4年後には次女（萌木）が生まれた。以下では、これら3人の子供たちについて日頃感じていることを書いてみたい。

今では対等な口をきく中学2年の長女。自分の部屋に陣取り、妻とよく口喧嘩をしている。休日に家族とドームへ遊びに行く時、「パパが行くなら行かない」と言われて寂しい思いをしたこともあるが、わたしの誕生日にクールビズのシャツを買ってくれたときにはこみ上げてくるものがあつた。来年は高校受験というから時間が経つのは早いものだ。一緒にお風呂に入り、鼻水を吸って上げたことが、ついこの間のように思い出される。小学校1年生からピアノを習っており、わたしも毎年クリスマスのピアノ発表会を楽しみにしている。

長男は小学校一年から柔道を習い、本所警察署での週2回の稽古に休まず行っている。また、将棋と釣りなど趣味が多彩。小さいうちから何にでも挑戦させたい。小学校4年生の次女も長男と同様に1年の頃から本所警察署で柔道を習っている。気が優しすぎるので格闘系は向いていないと思う

東構協の試験準備講習会

— 製作管理2級に75名受講 —

11年9月24日、東京都千代田区神田駿河台の総評会館で東京や関東近郊の鉄骨ファブ実務担当者ら計

75名を集め、鉄骨製作管理技術者試験準備講習会（2級）を開催した。

同講習会は10月15日に全国一斉に行われる本試験のための準備講習会。1級はすでに9月10日に実施されている。講師は今回も羽石良

一氏（さくら設計事務所）が担当。テキストとOHPを使用しながら、建築法規、鉄骨構造、品質管理、鉄骨加工、安全管理など試験問題の概要や要点などを解説、模擬試も実施した。

が、休まずに通っているのには感心する。早くも一緒にお風呂に入ってくれなくなったのが少し寂しいが、これも成長している証拠だと思う。

子供ら3人が成人して独り立ちするまで残すところわずか10年位しかないが、人様に迷惑をかけることのないように自立心を伸ばしていきたい。親としての勝手な希望ながら、長女には労働基準監督署、長男は税務署、次女は警視庁にそれぞれ就職してもらいたいがどうなるだろうか。それはともかく、今の社会人には将来、子供たちが普通に生活できるような環境を整える責任があり、わたし自身を含めてもう少し努力が必要ではないかと思う。当然ながら、自然=地球を大切にすることも忘れてはならない。

(谷村製作所社長)

信 友



理事
R・Jグレード部会長
坂爪 幸男

昨年、信頼を寄せていた友を亡くした。

同じ年、同じ地域、同じ規模の工場、仕事も共通していて、考え方も似ていた。

曲がったことが大嫌いで、とても人柄がよく、誰からも好かれるタイプ(この様に書くと美化しているように思われるが格においてかなうはずがない)で、煙草も吸わなかった。ただ違うところも2点あり、彼は酒好きだが自分は飲まず、そして、何よりも人望があったということが違う。

ある時、ちょっと立ち寄って仕事の話をしたが、すぐ帰るつもりが話に花が咲き2~3時間話し込んでしまった。今、考えると自分が迷惑だった存在かもしれないと反省する今日この頃

である。

今、彼は天国で残されたご家族、やり残したことなど、いろいろ気にかけていることと思う。でも彼のことで、天国でも、家族のことを心配しつつ、楽しく仕事をしているだろう。

付き合いは短い期間だったが、理想やくじけない精神は常に高く、いろいろ教わった貴重な体験は自分の中に強烈に沁み込んでいる。

これからは、直接会って話ができなくなるが、心の中で彼と会話をしながら問題解決や処理方法などの話ができるような気がする。

本当に今までありがとう。今まで以上に、前を向いて歩いてほしい。謹んでご冥福をお祈りするとともに、ご家族に幸あれと願いつつ、また、2012年がよき年であるように祈願しつつ筆を下ろしたいと思います。

(坂爪建鉄工業社長)

被災地の友を想う



理事
柳本 幸治

東北の気仙沼線・大谷海岸駅に隣接して道の駅とペンションがありました。このペンションの家族の方々とは2年前にトルコツアーで知り合い、帰国後も親しくお付き合いいただいていた仲です。昨年5月の連休には2泊3日の家族旅行を計画し、このペンションに宿泊する予定でした。

その矢先、3月11日午後2時46分、マグニチュード9の大地震が発生しました。最大40m近い高さの巨大な津波と火災が被害地域に追い打ちをかけ、震災から一夜明け、テレビで被災地の状況が少しずつ報道されるにつれ誰もがただ呆然としたことと思います。三陸の海岸線では、家屋や人は

おろか、町ごと完全に姿を消してしまっていたのです。その凄まじい映像を見て、わたしはペンションの友人家族のことが心配になり、すぐに電話をかけましたが、何度やっても通じませんでした。その後も連絡が取れないまま、彼らの安否が心配でなりません。

そこで、5月3日に妻と二人で気仙沼に行ってきました。気仙沼市内に入ると、そこはまさに「瓦礫の山」でした。その瓦礫を被災者と自衛隊員、警察官、消防署員の方々が忙しく片付けている横を通り、大谷海岸駅に出ました。ここも「瓦礫の山」で、ペンションの基礎だけ残して何もなく、大谷海岸駅のホーム、線路は半分くらい流出した状態でした。道の駅も「瓦礫の山」と化し、その間の空き地に仮設の屋台を組んで野菜や土産物を買っていました。そこの人たちにペンションの家族の安否を尋ねると、全員無事であることが判明しました。今どこに住んでいるかは分からないとのことでしたが、とにかく一安心して帰途につくことができました。

東北はこれから復興需要が見込まれます。インフラを一からやり直すわけですから、1960年代~70年代の高度成長期の日本列島改造論のようなことが東北地方で起き、それが日本全体の景気を浮揚させるきっかけになることを願っています。(富士工業専務)

鉄骨効果



理事
森 明

いよいよ本年5月に東京スカイツリーが完成開業になります。正月に、「おめでとうございます」と言うより大きな声で、「おめでとうございます」

の声が聞こえてくる気がします。

東京の高尾山と同じような高さの新名所が、人工の手で出来る快事が、同じ東京の下町で実現します。東京タワーが出現した時代から半世紀、この快事的建造物の主である鉄骨が、人々の目線でこれほど注目されることは、とりわけ鉄骨加工業界にある我が東構協の仲間にとっては頼もしい限りです。ぜひともこの機会を好機ととらえ「鉄骨効果」と名付けて業界の励みとしたいと思います。この「鉄骨効果」を持って世間の景気回復と、我が鉄骨加工業界の隆盛に寄与されることに期待して止みません。

東京スカイツリーの優れた設計施工技術が世界第一級であることは容易に測り知れますが、すべての需給の場において、広く一般の鉄骨加工業者が、それぞれの職域で果たす製作の技術技能が相応な水準を維持し、かつ正当な評価を得られ続けることが重要であると同時に、望むところであります。「鉄骨効果」が鉄骨需要を喚起し、相応な技術技能の水準が対応出来る環境が期待されます。

東構協が昨年来行っている地元優先の陳情活動も、本年はその成果を見守りたいところです。また、それぞれの需要規模にかなう技能評価と需給経済が整った環境維持のための主張を展開したく思います。

その一つとして、現在の鉄骨加工工場評価基準の内外における見直しも要望したく思います。特に我が国の機関は海外の工場も評価しており、話題の

T P P 協定による関税撤廃どころか、輸入を誘導する行為とも見られ、超デフレ経済下であって、よけいに需給経済を圧迫します。評価の在り方そのものの見直しも必要だと思えます。経済基盤の違う海外のコストを、容易に持ち込む手段として日本の性能評価基準が活用されることに疑問を感じます。

我々の誇りと自信ある行動を持って「鉄骨効果」を活用し、明るい鉄骨未来を実現したく思います。

(日本鉄構建設工業会長)

震災に思うこと



理事

高野 豊康

飯田橋駅前の歩道橋の上で東日本大震災を体験しました。揺れは徐々に激しくなり、そのうち高欄に掴まらないと立ってられない状態となり、後ろを見るとデッキが波のようにならなっていました。携帯ラジオでニュースを確認し、どうも東北の地震らしいことを知り、また、東京でもかなりの被害が出ているらしく、お台場の建設中の屋上から煙が出ている、九段会館の屋根が落ちて死傷者が出ている、J R、地下鉄いずれもストップし再開が見込まれないと伝えていました。携帯電話が繋がらず、公衆電話を探し、会社に安否の連絡を入れました。会社に被害は

なく、怪我人もなくまずは一安心。

タクシー、バスもつかまらず、会社のある新橋まで歩くことに。九段下まで歩きましたが、九段会館の天井落下の影響で救急車、消防車で道路はいっぱい。千代田区役所を過ぎた頃から帰宅命令が出たのか、歩道は帰宅を急ぐ人でいっぱい歩くのが困難な状態になりました。なんとか、内幸町から新橋に掛るところに来ると、コンビニエンスストアの食べ物らしきものはすでに無く、会社に着いたのが6時30分頃。帰宅への交通機関の運行再開はなんと翌日1:30となり、なんとか3:30に自宅に戻りました。本当に長い一日でした。

被災地は、これからが大変です。関東地方も今後の震災に対応する課題にぶつかりました。避難場所の建物(体育館等)の強化、長周期振動にも大きな課題があり、対応が急がれるところです。

10月に宮城県知事の講演会があり、現地では「もうすでに復旧は終わりました。あとは復興です。民間企業の力を借りたい」と誘致の講演をされておられました。

福島原発の問題も有り、現地では色々な対応が急がれるところです。我々も大きな震災に直面しましたが、東京で今回以上の震災はいずれ来るところ。建築物の安全性は今後ますます重要になってくると思われれます。末尾となりましたが、被災された多くの方々の日でも早い復興をお祈り申し上げます。(川岸工業営業部長)

耐震工事の分離発注相次ぐ

—兵庫県・新潟県の事例—

兵庫県の県立村岡高校第1期耐震補強鉄骨工事(美方郡香美町)が、耐震補強工事では初めての分離発注とし県から発注され、11年12月、同高校所

在地の但馬地区のMグレードファブ、阿野建設(朝来市和田山町、阿野孝好社長)が落札した。鉄骨工事は31・9トンの落札額は1300万円(トン4万7500円)だった。

また、公共の耐震補強工事における鉄骨製作分野の分離発注で、業界

初の適用事例になる「豊栄高校特別教室棟耐震補強枠付鉄骨ブレース製作」14セット(鉄骨重量約15トン)は、新潟県北区のMグレードファブ、坂上製作所(坂上勝彦社長)が826万3500円で落札、10年3月に鉄骨ブレースを同校敷地内に納品した。

新春雑感



東構塾塾長

羽石 良一

歴史に残る出来事に翻弄されたまま改年したが、果たして今年はどのような年になるのであろうか。

見積、契約、品質、製作、工期、コスト・・・、鉄骨製作ばかりでなく世の多くの会社が日夜それぞれの仕事で奮闘している。さらに今後、環太平洋に限らずグローバルな環境下で熾烈な競争に対応できるビジネス展開を進める覚悟が求められる。

今後只管（ひたすら）、「鉄骨」製作

一筋に生きる信念も一つの見識である。一方、業際分野、同業あるいは異業種間の協業化、クラスター製作方式、高付加価値化を織り込んだ専門技術業・・・などの検討も将来を見据えたビジネスモデルとして有効な方法であろうが、いずれにしても、先見性、広い視野及び相当の知識を備えたうえで初めての的確なビジョン策定が可能となるであろう。

しかれども・・・である。技術革新、情報収集、コストダウンに明け暮れて人生の黄昏を迎えるのは少々寂しい気がする。忙中の行楽でも、ひととき自然に親しむだけで人の心は浄化される。

古来、先人の心をとらえて止まなかった無作為の天然・・・何もそれは爛漫の春、錦繡の秋でなくてもよ

い・・・小川の水が弾けて残雪の間に芽吹き、野は草色青青、岸辺の柳色紅・・・モルゲンロートに蓮華升麻の花一輪、一滴の玉露をアクセサリーに浩然として・・・秋風が立ち、高原のススキにトンボの横流れ・・・枯れ葉に霜が降りて、遥かなる峰々は純白の佇まい・・・。変化に富んだまほろばの四季に惟いを致し、花鳥風月全ゆるものに素直な心で耽れば豊かな感性が育まれる。

霜柱を踏んで、凜とした早朝の冷気に沈む林に行く・・・樹幹を跳ねた陽光一閃、尉鷲の飛翔に震える朝露を射抜いて彩やかに飛び散る・・・。こころの琴線に触れる something を感ずれば、それはもう万葉の世界に誘われるプロローグである。塾生諸君にとって充実した年であることを祈りたい。

第3期2年目がスタート 羽石良一氏が新塾長に就任 —東構塾—

組合の若手経営者・技術者育成プロジェクト、「東構塾」は11年6月25日、組合会議室で第3期2年目となる初回講義を開き、東京のほか、神奈川、長野、新潟のMグレードファブから10名が参加した。

今回から羽石良一・建築鉄骨構造技術支援協会常務理事が前任の宇留野清氏に代わり塾長に就任した。

羽石新塾長は就任のあいさつで、「ファブリケーターは専門工事業者としてS造の基本である溶接技術の知識がゼネコンに劣ってはならず、ファブの各事業所に一人はWES特別級の保持者が必要。溶接の技術と知識を深く掘り下げる機会を設けたい」と述べ、溶接技術を中心にカリキュラムを構成する意向を示した。

羽石新塾長と塾生らは年4回の本講義とは別に研修講座を設けることを決めた。また、塾生からの「建築鉄骨以外の溶接技術にもふれたい」との提案で、造船所を見学する予定。

オブザーバーとして参加した飯田理事長は「東構塾は他県からも注目を集めている貴重な学習の場だ。塾生はこの体験を自社に持ち帰り、実戦で大いに活用してもらいたい」とエールを送った。



丸一鋼管東京第2工場を見学 多種多様な鋼管の製造工程を学ぶ

11年7月30日には、丸一鋼管・東京第2工場の見学会を実施。訪問

した塾生ら11名は、岩崎幸雄工場長から工場概要の説明を受けた後、2棟の製管工場で建築構造用角形鋼管、一般構造用鋼管や農芸用鋼管の造管ラインを中心に見て回った。

同工場は関東以北の需要をカバーする同地域のメイン工場。一行は概要説明の後、12インチまでの鋼管が製造可能な第2製管棟と3インチ以下の鋼管を製造する第1製管棟を見学。母材の原コイルがスリッターラインでより狭幅のスリットコイルに切断され、造管ラインで多品種・多サイズの円形鋼管や角形鋼管が成形される工程を学んだ。

見学後の質疑応答では、「ドブ漬けメッキすると、時々割れを起こす原因は何か」など製品の加工性に関心が集中。担当者は「製品にはめっき可能な成分の素材を使用しているのではないか」と回答した。

理事役員会報告



◆ 1月理事会 ◆

□ 1月27日、於・銀座東武ホテル□

都内鉄構2団体と実施した共同陳情を報告、今後も都内23区などに対して「地元優先発注」を求める活動を意欲的に行うことを確認した。

都庁と江東区に対し、地元専門工事業者の優先起用を求め、鉄工建設業協同組合と東京足立鉄骨工業会の共同陳情を20日に実施。飯田理事長は「業界の置かれている窮状を訴え、地元企業の育成や雇用対策、税込財源などの観点から、地元業者の優先起用を強く求めた」と説明。新潟県の耐震鉄骨発注の事例紹介のほか、支払い受け書義務化や地元参画の工事比率の実態調査の検討など「得た成果は大きい」として、都庁への再陳情など今後も23区、市町を中心に継続していく考えを示し、理事役員会の協力を求めた。

また、全国鉄骨協議会主催の「緊急・不況突破大会」での大会決議文、鉄骨工事限界価格アンケート調査結果を説明、「自分たちが値を下げている現状を何とか打破すべき」との意見で一致した。ただ、現状報告で「他県ファブが安値で仕事を受注している」「海外ファブの大手ゼネコンの積極起用も目立っている」など極めて厳しい状況で推移しているとする声が大半を占めた。

◆ 2月理事会 ◆

□ 2月23日、於・組合会議室□

全構協側が提案する新たな共同積算システムの運用方法が適用されれば、

原則的に建設地県の組合事務局が物件情報の処理を行うこととなる。東構協はこれを受け、「物件数が集中する都県の過度な業務負担が予想される」ため、昨年からの対応策を協議してきた。

理事会では「関東地区の物件情報を一括管理してきた群馬県組合事務局に当該業務を委託する現行の運用方法の継続を求めたい」とし、改正案反対の意思表示が必要との見解で一致。今後、千葉、埼玉の両組合と共同歩調をとりながら、関東支部会を通じて全構協に要望書を提出することを決めた。

2月には都議会と江東区議会に陳情書を提出しており、飯田理事長は、「陳情運動の進め方について建設的な提案を受けたほか、陳情先の議員が耐震補強工事の分離発注の事例について独自に調査を始めたもようだ」とし、「早くも一定の成果が上がっている」との手ごたえを示した。今後も引き続き実施していく考えを示し、「統一地方選までにできるだけ多くの地区を回りたい」とした。

◆ 4月理事会 ◆

□ 4月20日、於・組合会議室□

東構協では昨年度から鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会と共同で、都や区などの行政に対して公共工事における地元専門工事業者の優先採用の促進などを求める陳情活動を進めており、新年度も継続する方針だ。

また、このほどの統一地方選挙で議員の顔ぶれが変わったことを受けて「心機一転スタートさせる」ため、同活動の進め方について改めて協議。区ごとに議員との折衝などに当たる専任の担当者を割り振り、これまでに陳情書を提出していない区に重点を置いて陳情を行うことを決め、担当者の選任は飯田理事長に一任することとした。

続いて、第25回通常総会の議案書や各理事の役割分担を確認し、新年度の事業計画案に「地元優先発注の陳情活動をさらに強化する」などの項目を掲げることが報告された。

◆ 5月理事会 ◆

□ 5月20日、於・組合会議室□

東日本大震災で被災した地域の構成員を支援する目的で募金活動を実施している全構協の呼びかけに応え、東構協でも組合員に対し募金への協力を要請していた。このほど、有志14社と組合からの寄付金額が目標の50万円に達したことを受け、事務局が5月10日付で全構協に一括送金したと報告。募金の受付が続いていることを受け、引き続き組合員に対して協力を求めた。



◆ 6月理事会 ◆

□ 6月15日、於・組合会議室□

陳情活動は今年度も継続推進する方針で、理事会では各理事を議員との折衝などに当たる専任の担当者としてA～Dの4グループに分け、対象区市町を割り振る素案を作成。さらに、同素案を鉄工建、足立工業会にも送付して合意を取り付けるとともに、両団体から各グループへの担当者の割り当てを依頼することとし、陳情活動をこれまで以上に強力に推進するための体制づくりを進めた。

このほか、超音波探傷の主流がアナログからデジタルに移行しつつある現状を受け、デジタル超音波探傷器の使用方法を学ぶための講習会の実施について協議。7月15日に組合会議室で開催し、鉄工建、足立工業会からも参加者を募集することを決めた。当日は、超音波探傷器の販売を手がける日本ITeSのスタッフを講師に迎え、探傷器の調整やテストピースを使った実習などを通じて使用方法を学ぶこととなる。

◆ 7月理事会 ◆

□ 7月 12日、於・組合会議室□

組合では、陳情活動のさらなる拡充を目指し、都内 23 区 26 市を 4 グループに分け、1 グループ 3～5 名の理事役員が分担して陳情活動を行い、実施期間を 8 月から来年 3 月までとして全地域の活動を完了させることを確認。同時に実施担当者は「陳情行動計画報告書」や「陳情実施報告書」を組合事務局に提出する運用マニュアルを策定した。また、鉄工建と東京足立工業会との共同陳情を改めて確認した。



◆ 9月理事会 ◆

□ 9月 15日、於・組合会議室□

陳情活動の進め方をめぐり協議し、当面のスケジュールとして月末までに八王子市に陳情するための最終調整を進めているとの報告がなされた。

飯田理事長は「行政側も建設工事で地域維持を目的とする契約方式を採用するなど今が地元企業をアピールする好機。この機を逃さず、活動を続けていきたい」と意気込みを語った。

このほか、トモエ鉄工の新規入会について、全会一致で承認した。同社は重・軽量鉄骨に加え、ステンレス加工、

金物工事なども得意とし、組合への加入を通じて「グレードの取得を目指したい」考え。

◆ 10月理事会 ◆

□ 10月 13日、於・組合会議室□

飯田理事長は「益明け以降、仕事が出始めている。各社の選別受注や（赤字物件を）勇気をもって断り続けることで、やや受注環境も改善されつつある。何とか自助努力によって組合員が 1 社もかけることなく、この困難を乗り切ってほしい」とあいさつした。

理事会では、10月 29日の八王子市への陳情活動を報告。「得た成果は大きく、厳しい受注環境にある今こそこうした地道な活動が大切」（飯田理事長）として今後も鉄工建、東京足立工業会と合同で都内 23 区を中心に地元専門工事業者の優先発注を求める陳情活動を積極的に推進していくことを確認した。

◆ 11月理事会 ◆

□ 11月 16日、於・組合会議室□

東構協では年 1 回、組合員への活動報告と組合事業の対外的なアピールを兼ねた媒体として「リポート東構協」を発行し、組合員と賛助会員に加えて関係各所に配布している。理事会で協議し、新春賀詞交歓会で配布するとして、表紙は重点事業である陳情活動をテーマとすることとした。

このほか、景況を巡って情報交換を行い、受注状況は「東高西低の 2 極化の傾向にある」もよう。稼働率は年末まで 100% で推移し、「来春以降、S

グレードファブのオーバーフローした仕事を期待」との見通しが示された。さらに、単価面では「関東地区は弱含み横ばいが続く」現状にある。「価格は正の局面にはない。今は無理に受注せず、来春まで様子を見ながら待つのが懸命」との提言も聞かれた。



◆ 12月理事会 ◆

□ 12月 6日、於・組合会議室□

「建築用鋼材の品質証明ガイドライン」について関東支部主催の説明会が開催されることを受け、教育・技術委員会が中心となって説明会の開催を決定。組合員のほか、地場の流通・加工業者にも参加を呼びかけ、開催日は 2 月の定例理事会の日程に合わせて 21 日を予定した。

このほか、受注状況や今後の見通しを報告。関東地区の山積みは「来春から夏にかけて量的にかなり期待できる。回復基調が鮮明だ」とした。

一方、単価面では底ばいで推移するが、「鋼材市況の先安感が強く、材料の値下がりによる一段安が懸念」される。「人員を整理しても収益を確保するのが難しい水準にあり、早急な改善が急務」との声も聞かれた。

平成 23 年度通常総会開く

陳情活動をさらに推進へ

当組合は 11 年 5 月 20 日、千代田区のスクワール麹町で第 25 回通常総会を開催した。

総会では全議案を滞りなく可決。23 年度事業計画では共同購買に関する

事業、受注斡旋事業、調査研究に関する事業、教育・情報提供に関する事業などを推進する。理事補充では金谷義昭・金谷鉄工所社長を選出した。なお、総会後には、エー・エム・シーの田口英樹社長が「国内経済展望—11 年から 12 年にかけて—」をテーマに講演した。



都内 3 鉄構団体、都庁を皮切りに陳情活動スタート —地元ファブの優先起用求める—

◆ 1月20日 於・都庁、江東区 ◆

陳情は東構協のWGが中心となり、陳情先や要望事項など検討を続け、都内の関連団体である鉄工建と足立工業会にも参加を呼びかけ実現した。

都庁では木内良明都議会議員らに、業界を取り巻く厳しい受注環境を説明。そのうえで建築鉄骨や耐震補強の公共工事の発注において元請けに対し、下請契約における受注者の選定にあたり、①環境保全・二酸化炭素削減②地元企業の育成と地域経済の活性化③雇用の保護・安定と就労機会の拡大④税収財源の確保と納税企業に対する還元——などの観点から、「地元専門工事業者を優先的に採用、選考するよう指導徹底を」を盛り込んだ陳情書を手渡した。引き続き、鉄構3団体は江東区役所を訪れ、佐藤哲章副区長らに業界が置かれている窮状を強く訴え、同様の要望を行った。

飯田理事長は「手応えは十分。活動は長期に及ぶだろうが、業界が少しでも明るさを取り戻せるよう今後も頑張りたい」と意気込みを述べた。

◆ 2月7日 於・東京都議会 ◆

東京都議会の大沢昇議員事務所（江東区）を訪ね、陳情書を手渡した。

これに対し、大沢議員は「本来、公共工事は施設利用者として都民の幸せに繋がり、納税者は適正な価格で適正な納税が行われるべき性格のもの。それが今、大きく崩れている」と理解を示し、入札制度の改革などに言及。「予算審議のなかで取り組みたい」と前向きな姿勢をみせた。

◆ 2月21日 於・江東区議会 ◆

江東区役所を訪ね、榎本雄一区議会議長に企業倒産や廃業が相次ぐ鉄骨業界の窮状を訴え、陳情書を手渡した。

榎本議員は、陳情活動に理解を示した上で、議会に提議するシステムやタイミング、最近のJV入札方式の変化、地元建設業団体との連携などについてアドバイスをを行った。

さらに江東区が官民一体で建設中の大型物件（地下1階地上10階、SRC造、推定鉄骨量7,000ト）について「設計段階から地元企業の育成や雇用を求めた特徴のある工事。活動次第では他の案件につなげていく突破口になるのではないかと述べた。これに対し、飯田理事長は「東構協の構成員にはSグレードから未認定工場まで所属している。もちろん、都内鉄構3団体で鉄骨本体から金物工事まで対応は可能」とし、受け皿体制は整っていることを強調した。

◆ 2月25日 於・杉並区 ◆

田中良杉並区長と区議会に陳情書を提出した。

田中区長はこれを受け、「地元の建設関連業者からも同種の要望が寄せられており、できる限り期待に添えるよう尽力したい」と前向きに取り組む考えを示した。また、自らが提唱するまちづくりのグランドデザインを説明し、「計画が実施に移されれば、区内事業者にも相当の波及効果が見込まれる。地元業者の強い企業への育成とそれらの参画につながる環境を整えたい」との方針を明らかにした。

◆ 3月8日 於・墨田区 ◆

山崎昇墨田区長と区議会にファブの窮状を説明し、要望書を提出した。

西原文隆区議会議員は、「われわれとしても区が発注する工事をなるべく地元業者にやってもらいたいが、入札契約制度の問題もあってなかなかそうはいかない。区内業者の育成のために

も彼らが仕事を受注できるような仕組みづくりが必要」との認識を示した。

また、3団体は「分離発注などファブが区から直接仕事を受けられるようにしてほしい」と求めたものの、西原議員は「前例がないので非常に難しい」と指摘。これを受けて3団体側が「これまでの慣行を覆すのは困難だが、新潟県の耐震補強工事で実現した物品購入という形でならば鉄骨単価の適正化につながる」と提案したのに対しては、西原議員も一定の理解を示し、「後日改めて説明の機会を設けたい」との考えを述べた。

◆ 9月29日 於・八王子市 ◆

黒須隆一八王子市長と市議会にファブリケーターが直面する窮状を説明し、陳情書を提出した。

黒須市長はこれを受け、「コストを抑えるために安価な地方業者を起用したいゼネコン側の事情も理解できるが、地元の発展を支える地場業者を何よりも大事にしなければならない」と陳情の趣旨に一定の理解を示した。

また、分離発注の採用を提案したところ、「ゼネコンの抵抗が予想されるなどの課題もあり、早急な対応は難しい」としながらも、「仕事の質、を抜きにして単価だけで勝負が決する現状を憂慮する」とコメント。今後も地元業者の存続を支援する方策について検討していきたいとの考えを述べた。



活発な事業活動を展開

全国Mグレード部会

全国Mグレード部会連絡協議会（会長＝堀川勝・杉山建設工業専務＝千葉県）は11年6月18日、神奈川県横浜市のグランドローズホテルで第6回通常総会を開催し、独自で事業化を進めている「固形エンドタブ溶接技能者技量検定」の試験要領などを公表した。

堀川会長は「10月頃を目処に千葉県で技量検定試験を実施したい」と積極的な事業参加を呼びかけた。また、グループディスカッションでは、全構

協への要望や業界の改善・将来展望などで活発な提言も行われ、大いに盛り上がりを見せた。

全国R・Jグレード部会

全国R・Jグレード部会連絡会（会長＝松枝建次・松枝興業常務）は11年3月11日、大阪市の第一ホテルで、来賓に加藤卓郎・全構協副会長と元古典雄・大阪府鉄構建設業協同組合理事長を招き、第8回通常総会を開催した。オブザーバーとして北海道機械工業会鉄骨部会と茨城県鉄構工業協同組合が参加し、10組合約50名が参加した。

松枝会長は同会を「動く会」と位置付け、経営安定へ向け活動していくことを明確にした。

当日は、東北地方太平洋沖地震が発生する中役員会、西國光・鋼構造出版相談役による講演会、フリーディスカッションなど併催、予定を混乱なく済ませ、強固な団結力を示した。



地区会員名簿

東地区 (23社) 地区長 富士工業(株) 柳本 幸治

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー工業 株式会社	H	9	株式会社 中川鐵工所	M	17	三進建鉄 有限会社	R
2	株式会社 アイ・テック	H	10	中央鋼材 株式会社	M	18	株式会社 市川スチールエンジニアリング	R
3	株式会社 飯田製作所	M	11	中央ビルト工業 株式会社	R	19	株式会社 コイワ	R
4	株式会社 中込工業所	M	12	鈴木鉄工建設 株式会社	R	20	株式会社 長谷川工業	R
5	株式会社 前田製作所	M	13	有限会社 高市工業	R	21	ヤナセ工業	未
6	吉岡工業 株式会社	M	14	株式会社 角鹿鉄工	R	22	株式会社 奥村鉄構	未
7	株式会社 谷村製作所	M	15	株式会社 利根川鐵工所	R	23	有限会社 矢萩鉄工	未
8	富士工業 株式会社	M	16	林鉄工 株式会社	R			

中地区 (12社) 地区長 (有) 金谷鉄工所 金谷 義昭

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工 株式会社	M	5	有限会社 修和鉄工	M	9	小久保鉄工 株式会社	R
2	松田鋼業 株式会社	M	6	井上鉄工 株式会社	M	10	有限会社 大橋鉄工所	未
3	東京建鉄 株式会社	M	7	株式会社 三佑鉄工	M	11	株式会社 帝都建工	未
4	株式会社 鎌建工業	M	8	有限会社 金谷鉄工所	R	12	株式会社 テッコー	未

西地区 (21社) 地区長 (有) 坂爪建鉄工業 坂爪 幸男

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業 株式会社	H	8	有限会社 坂爪建鉄工業	M	15	株式会社 河村鉄工所	R
2	川岸工業 株式会社	H	9	有限会社 天野鉄工所	R	16	有限会社 山上建設工業	R
3	株式会社 矢嶋	H	10	株式会社 一本木鉄工	R	17	株式会社 小室鉄建	R
4	小島工業 株式会社	M	11	株式会社 酒多鉄工所	R	18	株式会社 高水鐵工	R
5	日本鉄構建設工業 株式会社	M	12	島崎工業 株式会社	R	19	有限会社 藤本鉄工所	R
6	井戸鉄建 株式会社	M	13	有限会社 中央製作所	R	20	近藤鉄工 株式会社	未
7	株式会社 かしや建設工業	M	14	有限会社 橋本鉄工	R	21	株式会社 敏鉄工	未

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者	役職	業種・取扱商品
				E-mail		担当者		
	大日本塗料販売(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501 mayamoto-ka@star.dnt.co.jp	03-5710-4520	宮本 和夫 岡本 裕介	課長	全構指定塗料 錆止め塗料
幹事	大同生命保険(株) 首都圏地区営業所	103-0027	東京都中央区日本橋 2-7-1 NOF日本橋本町ビル6F	03-3667-8021 iwahori.akira@daido-life.co.jp	03-3667-8022	澤村 茂樹 岩堀 彰	営業本部長 営業推進部長	生命保険 共済保険
監査	ダイニッカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀 1-9-5	03-3552-3163 t-takaoka@star.dainikka.co.jp	03-3552-3162	高岡 鉄也 川路 幸祐		全構指定塗料 錆止め塗料
会長	富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南 1-27-11	03-3314-1430 honbu@fujimikougyo.co.jp	03-3314-5819	石塚 勲 蒲生 紘一郎	代表取締役 部長	高圧ガス、溶材 機械、工具
幹事	(株)アマダシンツール	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923 fumio.hashimoto@amada.co.jp	045-591-9460	橋本 文夫	副本部長	パトソ用アブレド
	加研工業(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 5-23-6	03-3684-8031 takahashi@kaken.net	03-3684-8042	吉川 由巳 高橋 亨	代表取締役 取締役	研削砥石製造販売
	サンコーテクノ(株)	270-0107	千葉県流山市西深井 1296-16	04-7178-3500	04-7178-5100	小西 隆夫 中村		建築金物製造販売
	(株)昭和塗料商会	101-0051	東京都千代田区神田神保町 2-48 3510ビルFA室	03-3265-8951 showa-toryo-t@k2.dion.ne.jp	03-3262-4570	伊東 勝美 渡辺 高紳	所長 課長	塗料販売
	(株)星和	121-0052	東京都足立区六木 2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	北嶋 重司 星野 傳弘	専務取締役 常務取締役	鋼材、建築資材 ボルト、ナット、仮設機材
	(株)東栄化学	192-0032	東京都八王子市石川町 2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村 正二 宮阪 直樹	代表取締役	高圧ガス
	所沢資材(株)	359-0032	埼玉県所沢市若松町 852	04-2992-0231 tokosai-l@circus.ocn.ne.jp	04-2998-0570	本橋 孝義 小高 進一	代表取締役	ベースバック ハイベース
会計	中村鉄興(株)	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島 1-478	04-2948-0610 ntk@viola.ocn.ne.jp	04-2949-2209	中村 弘田郎	代表取締役	切り板 孔あけ
	野村産業(株)	206-0812	東京都稲城市矢野口 786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村 俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器 ハイテンションボルト
	フルサト工業(株)	362-0808	埼玉県北足立郡伊奈町 大字小針新宿中島1295	048-728-8861 f0232@furusato.co.jp	048-728-8868	丹羽 新六	所長	鉄骨副資材 ボルト
	(株)丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り 2-6-8	047-304-0811 maruwa@checkerplate.co.jp	047-304-0819	中畑 守弘 阿部 孝典	代表取締役	鍍鋼板専門 鋼板加工
	美鈴印刷紙工(株)	135-0033	東京都江東区深川 2-24-11	03-3643-4485 misuz-film-l@tokyo.email.ne.jp	03-3642-3265	飯島 隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム 製造販売
	有修溶工(株)	136-0071	東京都江東区亀戸 9-35-16	03-3637-6251 stud@yu-shu.co.jp	03-3637-6253	佐藤 智輝 浪花 俊勝	係長 代表取締役	スタッド溶接工事 材料販売
	東京電気通信(株)	162-0065	東京都新宿区住吉町 1-19 サトクラ曙橋ビル	03-3356-9071 stud@yu-shu.co.jp	03-3356-9354	岡部 直樹	課長	情報システム総合プランナー NTTコミュニケーションズ代理店

編集後記

いま業界は未曾有の景気の悪化に見舞われている。これは業界が自主的にどんな対策を取ろうとも、業界のドラスチックな構造改革を行っていかない限り改善はありえない。それは、鉄骨の需要に合ったキャパにしてファブを減少させていくことが必要かもしれない。そうする以外

価格問題は解決しないと思う。

しかし、ちょっと視点を変えて考えてみよう。農産物に地産地消という言葉が有る。これは、生産と消費が同じエリアで営まれていることである。生産者の顔が見えるところで農産物が生産され、また消費されることである。安全安心な食料の生産には必須な条件である。

さて鉄骨生産ではどうか？

フード・マイレージと同様に、建築さ

れる近隣で鉄骨生産されることの方が資源や環境問題さらには、税の輪廻を考えた場合良いに決まっている。

我が組合は、鉄工建設協同組合、東京足立鉄骨工業会と協働で発注者である行政に対して地元専門業者を優先的に採用するように陳情活動を行ってきたが、これは正論なのである。

今後も積極的に行っていくことが必要である。